

O.B 会報

第 14 号

1976. 12. 1

横浜国立大学
ワンダーフォーゲル部
O B 会

はじめに

O B 会事務局長 海 保 茂 道

今年は、二つの遭難事故が続き、最悪の年となってしまいました。五月連休の現役の奥穂遭難、そして O B 会員であり、奥穂遭難の遺体収容の時卒先して動いてくれた十五期の大島君の谷川遭難。

この二つの事故を通して、あらためて O B 会としての遭難対策を考えさせられます。特に現役の事故では、各 O B の個人的な力に依存し、O B 会としては組織を通してカンパを呼びかけることぐらいしかできませんでした。事故発生と同時に現地にとんでくれた小口君（十四期）、遺体捜索等中心となって現地での交渉にあたった山川氏（十二期）など、その他多勢の O B の方々の御協力により、どうか事故処理をこなすことができました。遺体収容には、佐木氏（八期）丸山氏（十一期）ら五名が参加、五月十六日 O B 総会の日に遺体収容をしたのでした。

今後、こうした事故はおこらない様祈る訳ですが、事務局においても現役遭難時の O B 会の遭難対策を今一度再考してみる必要

がありとの意見もでており、今後の討議課題となっております。事務局に一任されましたカンパの件は、以下に詳しく報告しますが、現役に遭難対策として使うようにと、全額寄付しましたので、あらためて、カンパされた O B の方々にお礼申し上げます。又、大島君の遭難時には、仲間である十五期を中心として事故処理にあたり、O B 会としては、告別式に生花を供えたにとどまりました。

ここに二人の冥福を祈ると共に、二度とこのような悲しい事のおこらぬ様にと願ってやみません。

さて、来年度は二〇周年にむけて、O B 会としても新たなる一歩をふみ出したいと考えております。名簿・会報等最低限の活動の上にさらに、O B 会としての活動を、と考へ、二〇周年行事を計画してみました。概要は去年計画したものと同じです。二〇周年を契機に、新たなる一歩を。

《昭和五十一年度 O B 総会議事録》

1. 期 日 昭和五十一年五月一六日（日）一三時～一七時
2. 場 所 横浜市教育会館
3. 出席者 （五二名）

三期 井上・白井・江崎

四期 郡司・谷上・斎藤(伸)・原・高田

五期 亀井

六期 密島・原・蓮尾・菅谷

七期 八島

八期 小出・早坂・溝田・田中・高橋・綾部

九期 三浦(煌)・上原

十期 山本

十二期 山川・岡戸・榎本・佐藤・山下

十三期 宇佐川・小沢・中村・吉里・海保

十四期 小口・鶴岡・上野

十五期 青木・岩船・牛窪・小泉・谷島・中島・萩生田

十六期 村田・池谷・本多・大竹・長田・山崎・中野・三好・佐藤

なお、当日、現役の奥穂における遭難で遺体収容の為、佐木(八期)、丸山(十一期)、大島(十五期)、板垣、植松(十六期)の各氏がOB有志の収容隊として現地に派遣された。

4. 内 容

議長・上原(九期) 書記・長田(十六期)

- (1) 五〇年度活動報告……………海保(十三期)
- 名簿・OB会報の作成、一〇回の事務局会、現役へのザックマークのプレゼント(今年度活動報告について質疑応答なし)

(2) 五〇年度会計報告……………上野(十四期)

収入	二一六四四三	うち一六四〇〇〇は会費
支出	二一五四八五	で全会員の約五〇%によるものである。
残高	九五八	

※山小屋建設当時の負債一部返却(三期)井田・井上氏、(四期)跡部・郡司氏、それぞれ五〇〇〇円づつ返却しました。

(3) YWV事故報告……………植草・山口貢(現役)

①事故発生状況、捜索状況、遺体収容作業の状況。

②事故原因の究明及び責任体制について。

③事故におけるOBの活動……………斎藤伸(四期)

5・2 各期連絡

5・2〜6 現地派遣第一次

5・5 第一回OB有志会合(カンパを決定)

5・9 事故中間報告会出席、第二回対策会議

5・11 第二次派遣打合せ

5・15〜16 第二次派遣(佐木、丸山、大島、板垣、植松)

④事故に対する質疑応答

⑤OBより現役に対する意見

- 。安全面の考慮を、事故に対する認識の甘さ、基本的活動の規制を。
- 。ワンゲル活動の根本は何か、再熟考の時期ではないのか。
- 。多様性……………技術的問題ではない、技術的向上を望んでは

つけならい(ビッケル・アイゼンの禁止)、山岳部との違
い(ワングルらしさ)

。審査会……通ったものと通らないものとの違い。審査し
たことの意味の追求。

。遭難したら自己処理できる範囲で。

。審査会の実質向上(何ものにも左右されない力をもつ)

。チョンボについては外部に対して事故をおこした何の理
由にもならない。

。執行部方針の一貫性、発展性をはかる(四・五年計画に
する)

。メンバー(部員)ひとりひとりの把握が必要。

等々意見が出された。

⑥ 現役より遭難関係の会計報告

⑦ OB有志にて始めたカンパについての報告：小泉(十五期)

OBより若干の質疑、意見ありカンパを続行する。使用方
法は事務局に一任する。

(4) その他

会 則

二〇周年

正会員・準会員

。会則を実質的なものに、事務局にて検討——決議来年へ。

。二〇周年行事は延期。

。会費を一回も支払っていない会員は準会員に(会報その

他配布ならい)

(5) OB各期紹介

奥穂遭難事故

OBカンパの報告

事故発生当時多額の資金を必要とするという予想のもとに有志
でカンパ活動をはじめ、総会にてそのカンパ活動について事務局
に一任されました。

その後、現役の方でほぼ全額まかなえることになりましたので、
遭難対策に使うようにということで、集まったカンパ金を現役に
わたしました。

以下、その報告です。カンパに協力して下さいましたOBの方
々、ありがとうございます。

収 入 八一六六四〇円

支 出 五四〇〇〇円

トランシーバー 三台
一八、〇〇〇円×三台＝五四、〇〇〇円

「残金は遭難対策費にくみいれました」

(細目)カンパしてくれた人・金額

二期 吉野次郎 一万円

三期 斎藤 大樹 二千元 ・ 高橋 俊吾 一万円

井上 肇 一万円 ・ 白井 信行 五千元

九期	八期	六期	四期	十一期	十二期	十三期	十四期	十五期	十六期
木下三男	早坂宗	永田多恵子	諸節紀代子	鈴木弥栄男	山川隆	山下久雄	吉里和美	岩船芳人	池谷文明
五千元	一万円	四千元	三千元	六千元	一万円	一万円	七千元	一万円	三千元
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
近藤元惠	芦川智	竹内章二	塩谷佐紀子	松川清	岡戸秀夫	武者真紀子	赤松明	牛窪肖	村田由利子
五千元	一万円	七千元	五千元	五千円	二万二千七百六拾円	一万円	九千元	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
三浦煌太郎	須藤昌博	谷昭仁	井田貞司	三浦正継	安藤貞利	太田繁信	鶴岡一	萩生田弘	青木真知子
五千元	一万円	六千元	一万円	六千元	一万五千円	九千元	五千円	一万円	五千元
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
天笠宏道	佐木誠夫	高田良子	谷上俊三	上原昌弘	左藤清	武田真信	下田昭	小泉啓治	中島一夫
五千元	四千百六拾円	五千元	一万円	五千円	一万円	九千元	五千五百六拾円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
朝倉収	池原盛彦	原隆子	斎藤伸一	大森常明	榊原福司	野口章子	小口雄平	岩船芳人	谷島章予
九千元	一万円	五千元	一万円	一万円	一万円	五千円	一万円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
馬場誠一	高橋弓子	菅谷美智子	横山幸子	榊原福司	榊原福司	山下久雄	小口雄平	岩船芳人	谷島章予
五千元	一万円	一万円	四千元	一万円	一万円	一万円	一万円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
三浦煌太郎	田中稔	久野秀晴	郡司直樹	榊原福司	榊原福司	武者真紀子	下田昭	岩船芳人	谷島章予
五千元	一万円	一万円	一万円	五千円	五千円	一万円	五千五百六拾円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
朝倉収	池原盛彦	菅谷光雄	斎藤伸一	大森常明	榊原福司	野口章子	小口雄平	岩船芳人	谷島章予
九千元	一万円	一万円	一万円	一万円	一万円	五千円	一万円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
木下三男	高橋弓子	菅谷美智子	横山幸子	大森常明	榊原福司	野口章子	小口雄平	岩船芳人	谷島章予
五千元	一万円	一万円	四千元	一万円	一万円	五千円	一万円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
近藤元惠	田中稔	久野秀晴	郡司直樹	大森常明	榊原福司	武者真紀子	下田昭	岩船芳人	谷島章予
五千元	一万円	一万円	一万円	一万円	一万円	一万円	五千五百六拾円	一万円	一万円
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

本多 賢 一万円 ・ 大竹みどり 一万円
長田 恭子 一万円 ・ 山崎 恵子 一万円
板垣 雅訓 二万二千五百円 ・ 中野 祥一 一万円
佐藤 善樹 一万円 ・ 三好 正幸 一万円

総計 八一六、六四〇円

故大島誠君を偲んで

現役の事故の記憶も新しい七月十日、本会のメンバーである大島誠君（十五期）が谷川岳一ノ倉沢において遭難しました。

事故の詳細については、先にお知らせした通りで、会員の諸兄には御存知の事と思います。

彼は、現役・OB時代を通じて、どん欲なまでに山をめざしていました。OBになってからは、沢登り、冬山と既成のワングルの枠を超えた数多くの山行をし、本OB会の中であって、山行技術においてはトップ・レベルにあったものと思います。このような彼の行動は、「ワングルとは何か？」を考えた結果の彼なりの結論でもあったようです。行為と理念の遊離していた我々の頃のワングルの中であって、彼は行為をつきつめて行く方向を取っていました。山行をする以上は、より困難なものを選んでいました。夏合宿においては、景鶴山—平ヶ岳。冬山訓練における火打山

初登頂。積雪期火打—焼縦走等々。未知なものへぶつかって行く行動力に驚かされたのはほくだけではないだろうと思います。

そんな彼をささえていたのは、綿密な計画性と決断力でした。計画を立てている時、彼はできる限りの情報を集め検討していましたが、あらゆる面における実にこまかな配慮には、山行を共にする時感心させられたものでした。

そのように計画を立て、「行ける」と判断した時の彼は、しかし非常に強気でした。ですから準備段階を知らないで、計画書だけを見た時、

「大丈夫か？」

と彼に言った事が何度もありました。

三月に八ヶ岳へ行った帰り、車中で、

「おれは憶病だから事故は起こさないよ。」

と言っていました。今にして思えば自分を言いあてていたと思います。

事故を起こした所は、聞けば、何でもない所だそうです。ふつうでは転落など考えられない所だとか。無茶をするとは考えられない彼にしてみれば、一瞬の気のゆるみとしか考えられません。彼の死によって、生と死がいかに近いものであるか。人間、いつも死と背中合わせで生きているという事を思い知らされました。長くなりました。彼については書き出せば、きりが無い程思いますが、このへんでペンを置きます。冥福を祈りつつ……、合掌。

追記

故大島君の遺体収容には、榎本氏(十二期)中村氏・吉里氏竹村氏(十三期)高木氏(十四期)に現地へ行っていただき、三好氏(十六期)には対策本部としてお世話になりました。ここに紙面をお貸りしてお礼申し上げます。

(文責 小泉)

東から西から

No. 3

△関西支部▽

関西支部幹事一期 嘉納 秀明

関西支部には十数名の会員の方がおられます。支部活動としては、出来るだけ月一回はどこかに出かけるようにと幹事を決めて行事の案内を出しています。ここ約一年の関西支部の活動の記録

は次の表のようになります。本年はささやかながら比良川のほとりにテント二張りをたて小さな合宿を行いました。表でおわかりのようにあまり高所に及ぶ活動はありませんが、家族ハイキングのような形で近郊の丘陵地帯を歩いています。現在一番の問題は参加される会員が固定化していることです。関西支部の方々には是非一度参加して下さるようこの紙面をお借りして願います。また最近関西に來られたりして連絡が届いていない方は幹事までご一報下さい。例会のお知らせをお送りします。

● Y・W・V・OB会関西支部の活動

年月日	活動内容	参加者
50・7・19	支部総会	嘉納、官崎、渡辺、諸角、岡本、三宅、計6名
50・9・28	六甲W	官崎、石橋夫妻、嘉納父子 計5名
50・10・26	箕面W	諸角一家(5)、渡辺一家(4)、嘉納一家(3)、官崎、三宅 計14名
50・11・30	和泉葛城山W	嘉納 計1名

年月日	活動内容	参加者
51・10・24	ボンボン山一善峰寺	渡辺一家(4)、嘉納計5名
51・8・21、22	比良山合宿	宮崎、渡辺父子、嘉納父子計5名
51・7・17	ピアガーデン談話会	宮崎、渡辺、嘉納、小玉計4名
51・5・9	支部総会	松川、渡辺、諸角、岡本、嘉納、田上、宮崎計7名
51・4・18	ボンボン山W	嘉納、宮崎父子(3)計4名
51・1・25	新年会(渡辺宅)	嘉納父子、宮崎、渡辺一家(4)、諸角一家(5)、三宅一家(3)計15名
50・12・7	忘年会(諸角宅)	諸角一家(5)、宮崎父子(2)、渡辺一家(4)、嘉納夫人、三宅、岡本一家(5)計18名

△第一期生▽

一期の連中も、ほぼ「不惑」の年齢に達しつつある。又はサラリーマン生活も、丁度折り返し地点に立っているともいえる。

それでも尚、ワングル時代に築いた体力を基に、社会生活をし、その友情を大事にすることは、変わりはない。

今秋、卒業以来の年月の半分を、西独にて活躍していた吉田光志君を、東京に迎えて、ワングル一期在京生が集った。河野哲君(四年間の在サンフランシスコを終えた許り)、望月元雄君(二年間の在名古屋より帰京)、桑原忠雄君、小生(共に卒業以来在京生活)暫く、じっと顔を見詰めて、ヤアとあいさつして、又じっくりと見なおすといった出会いでありました。黒沢教授バリの吉田、桑原の両君、ロマンスグレイびつたりの河野、そして又、ゴルフ位では到底減量できない各人の腹廻りをお互いに、笑い合ひ始末。

話していると、昔と全く変わっていない活達ぶり、性格ぶりに安心と同時に、卒業以来の培ってきた各自の輝きも感じた。

田上君(卒業以来、名古屋→大阪と西へ西へと去っていった)嘉納君(横浜→大阪へ大学をかえた)等の諸君も一緒ならとふっと思っただけでありました。

以下、最近の横浜国大人事録名鑑より、
◎嘉納秀明(工・機械)

阪大工学部産業機械工学科助教授

工博・産業機械体系工学

◎田上栄一(経・速藤ゼミ)

神戸製鋼・工具事業部明石工場生産管理課

◎小野三郎(経・久保村ゼミ)

音信不通

◎吉田光志(経・黒沢ゼミ)

三菱レーヨンインテリア販売部

◎吉田輝義(工・機械)

三菱電機静岡製作所製造管理部工務課

◎松本正雄(工・黒沢ゼミ)

日本テレビ・営業局第二営業部

◎望月元雄(経・黒沢ゼミ)

秩父セメント生コン管理部

◎藤岡暉生(工・機械)

新日本製鉄君津製鉄所設備部鋼板地区設備課

◎吉田和夫(工・機械)

昭和石油本社計数管理部OR課

◎桑原忠雄(経・黒沢ゼミ)

オリエンタル酵母経営管理部

◎河野 哲(経・速藤ゼミ)

小松製作所海外事業本部付

◎佐藤文雄(経・藤田ゼミ)

自営

最後に私事になりますが、小生、昨夏、慢性肝炎にて数ヶ月の

入院止むなきに至りました。「不惑」は同時に、「厄年」でもあります。一期生を始め、二期生以下も毎年必ず年齢を重ねるのは、確実なワケですから、十分に自愛される様に。(一期 松本)

△第二期生▽

宮崎さんちの徹くん

藤 林 徹

君は四十七年の三月に生れたから、今はもう四才になったんだね。僕はまだ君に会っていないけど、たぶんお父さんに似て体格のがっしりしたふっくら顔の可愛い男の子だろうね。

君のお父さんは僕の学生時代の友達で、そう、ワンゲル、横浜国大のワンダーフォーゲル部の二期生で、他の皆んな、例えば日立に行ってる塚原さん、キャンソカメラの吉野さん、学校の先生をしている岩上さん達と、よく山に登ったりリュックをかついで日本中を歩き回ったものでした。創立者の松本さん、望月さん達にガミガミおこられながら山道を登り、強い雨風の中でテントの柱を押えながら一夜を明かし、時にはキャンプファイヤーに、野の花に心を奪われた仲間です。

だから僕は思います。君もお父さんに似て楽しい仲間をたくさん持った強い男になった時、すばらしい人生を歩み始めるんだと。君のお父さんの仲間はね、前に挙げた人達の他に、岩村さん、倉田さん、荻野さんに氏平さん、ある人は名前が変わって奥様になったけど、それは昔は元気で頑張りやだったね。今でも不思議に

思うのは、よく男性の米屋、斎藤、渡辺さん達と一緒に高い山に登り同じ生活をしていたけれど、いつも静かでおとなしい女性だった事です。

君ももう少し大きくなってお父さんの人となりを知るようになったら、こんな仲間と一緒にだったからお父さんは楽しい人なんだと判るようになるでしょう。

学校を卒業して皆んな散り／＼になりました。仕事を持って大阪に、福井の方に行きました。皆んな自分の道を歩き始めて十五年が過ぎたのです。でも仲間はいつも皆んなの事を思っています。

社会に出て十五年も過ぎると、ある人には君みたいな可愛い子供ができて、ある人には難しい仕事の責任がのしかかり、またある人は社会に奉仕しながら家庭を守り、皆んな苦勞して毎日を通しています。だからある時はガンコ者になりこわい顔をするときもあります。でもその奥には十五年前の楽しい顔があるのです。

君のお父さんが疲れて帰って、ときどきボーッとしていたら、たぶん昔の楽しい顔に会いたいです。そんなとき近くの散歩でも、日帰りできる山歩きでも、あるいは冬のスキーでもぜひ誘ってあげてくださいね。自然の中でびのびと思いい切って過した後には、楽しい顔が戻って来ます。

〈第三期生〉

そのうち集ろうよ、そのうち集ろうよという話が、何かの折に連絡すると必ずでてくるのだけれど、ちっとも集れていないのが三期です。そうかといって何もないからと、これで終りにしてしまいわけにいかないのがOB会報の原稿のようです。さて、では少ない情報で紙面をうめますか。

まず大きく動いた人の話。栗田武寿郎君です。勤めが川崎から縦の木はのこったの舞台の宮城県船岡にある仙台工場にうつり住いもそっちへ行ってしまった。

次は関西支部の話。新年会から忘年会まで年間活動は有名ですが、そのしめくゝりの忘年会をいつもひきうけているのが渡辺亨英君。

俺、みんなに会いたいんだよ。みかん狩りのシーズンにみんなして家族づれできてくれないかな、といっているのは静岡の高橋俊吾君。

ところで、みんなでかけているのかなんて話になった時、一人はまるっきり様にならないけど、三期一九人をひとたばにして年間活動をすれば結構格好がつくようです。

まず腰塚典明君のスキー。春に大山に行った人。それに五月の連休に山小屋に行って現役と笹ヶ峰をほったき歩いた人。夏には江崎伴雄君が家族四人で富士登山し、諸節紀代子さんがインドへ出かけてました。そして一〇月。浅草岳の頂上に三期生がいました。

我々三期の頃は教育学部ではなく学芸学部が鎌倉にあり、時々講義をさぼり、鎌倉の裏道を歩いたり、鎌倉の部室でダべったものでした。この間、山にごぶさたしっぱなしの地元育ちの人が、あの頃のすてきな切り通しがみつからなくてとこぼしてました。今や休みの日の鎌倉は訪れる人に占領されてしまい、そういう人達の動きにつられ、地元の人でさえ、自分の行きたいところにも行けなくなってしまったのでしうか。ネェガラチャン。

△第四期生▽

今年のOB総会は遭難対策で皆に寄付金の協力をお願いした件もあり、斎藤伸、谷上、原、高田（寺沢）、郡司と五名が出席し相変わらずとまりが良い。

仙台勤務となった跡部は集金に東北六県を車で駆け巡る多忙さで、仙台では先輩の永田博士邸に未だ挨拶に訪問してもないとか。永田は厳父が逝去されて早くも一周忌。

週刊現代編集部勤務の竹内は取材で各地を飛び廻りながらも浦和に新居を完成。斎藤伸は千葉県原市からOB事務局会に終電車の時刻を気にしながら皆勤。日立中研の牧原は研究員は卒業して現在特許部勤務。富士フィルムの谷上は家族で山登りにドライブに活動し、自社製写真賀状で毎年近況報告。斎藤貞は七十日間アラブ諸国歴訪の体験を基に、石油化学業界の中で生き抜く道を探している。

女性は皆家庭の主婦に納まってしまうと思ったら、高田は子供に手が

掛らなくなったので再び小学校の教壇に立っている。（郡司）

△第五期生▽

五期の連中、増々盛んに活躍の様です。というのは、連中からの便りが何も無いからです。卒業後一〇余年「何か特別の事がなければ便りの交換もせず」が恒例に成っている我々の期では、便りがないのが元氣な知らせと、皆々の元氣な活躍を疑いもなく受け入れています。とは云うもの、少々心配に成り在阪のM氏と相談の結果、完全に意見が一致し、右の文を書きました。

五期の皆様に御願ひ。OB総会にはぜひ顔を見せて下さい！！

△第六期生▽

職場では、中堅として職場のために、自分のためにはたらく、家庭にはいれば、よきパパ、ママとして、子どもとはしゃぐ年代になつた六期生である。たまには、電話でもして情報交換でもすればよいものを、なかなかできない。そんなわけで、年賀状ぐらゐからしか、情報をキャッチすることはできない。この会報がお手もとに届くころは、昭和五十二年をむかえ、ちょっと情報遅れの点もあるかもしれないが、その中から二、三、拾ってみよう。四月には、長谷部さんが、すばらしい伴侶を見つけてゴールイン家庭と学校にもちまえのファイトを持ってはりきってらっしゃるようです。長崎で活躍していた岡田夫妻は、埼玉のほうにもどられたとか、まだまだ情報不足の感がまぬがれないかもしれません

がおゆるしを、現役卒業は十年、だれかの音頭で集まりたいところ、実感ですな。

(文責 原)

△第七期生▽

原稿を依頼されてから、早や一ヶ月が経つのではないか、海保事務局長のいかりと締切を過ぎてのあせりの顔が目につく、誠に申し訳なく思っております。しかしワンゲル七期は前回会報で報告した通りで、くわしい事がわからず、七期ひとり／＼がこんな生活をしているのではないかと想像して、報告に変えさしていただきたい。

卒業後十年目に入り、公的にはやゝベテランに入りつつ、どんな事柄にもピクともしない自信があるが、この低成長(いや減速)経済下若干の責任ある立場につき、白髪がふえるか、ひたいの大きさが広がりつつある。私的には、数名の独身貴族を除き子供〇／＼三名をかかえ、たまの休日も疲れがとれず、運動不足に体力の低下が目立ち、山には全くおさらばである。女性陣も全く同様ではないだろうか。

次回会報にはもっとくわしく書きます。今回はお許しを下さい。

△第八期生▽

我々八期二二名も卒業後、早十年目を迎えようとしている。これまでは、誰かの結婚式の都度、同期の集いが持たれたが、現在では残りもわずかになってしまい、昨年の芦川を最後にして、

今年はどうとう開かれずじまいであった。しかも、残されたS・T・T嬢のいずれもその気配すらなく、皆々の期待も裏切られ続けている。そういうわけで情報は皆無同然である。早坂の話では岩科の君津製鉄所への転勤以外は「経済組」は変りなしのことであった。「工学部」「教育学部」に関しては溝田と相談した結果、変りはないだろうという結論になった。来年は十年目を記念して一席設けますので今回はこれにて御容赦を。(田中)

△第九期生▽

我々の仲間は、十七名のうち一村君が十一月に結婚するので十六名がゴールインしたことになる、結婚ラッシュからベビラッシュの時期に移行しつつあるようである。そこで、各氏に近況を報告してもらった。

「槍ヶ岳などの北アルプスも市内にある長野県大町市に在住して六年目。妻をもらって四年目。長女と遊んで三年目に突入。北アルプスはいわば小生のお庭の一部。日帰りの北アルプス登山、河原でのバーベキュー、山を眺めてのゴルフやテニスの練習、十坪畑の農作業等々、そして仕事とお勉強。このように小生の青春(?)は脱都会の生活で花開いております。」(鈴木弥栄男)

「私の回りには何ら変化なく毎日を過ごしています。今年の夏、一人で燕岳、大滝山へ槍穂高を見ながら縦走して、初めて上高地へ下山しました。久し振りに本格的に縦走してみて、長い間忘れていた山の生活を懐かしく思い出しました。その内出来たら槍ヶ

穂高の縦走でもしてみたいものだとも考えず夢んでいます。さ
さやかながら体力の維持を目ざして週一回、近くの公園までラン
ニングしています。先日偶然、十二期の山川君に会い、少々テレ
臭い気がしましたが。」

(日渡松男)

「四月七日に二男正和が生まれ、現在育児休暇をもらい来年四
月に復職する予定です。忙しいとはいいながらのんびりすごして
います。半年たち少し余裕が出て来て休みの間に何かやりたいと
思っています。長男が小さいうちはおぶって(車で峠まで行き)
ほだい峠付近を歩いたりしましたが、将来は家族で南アルプスに
でも登りたいと話しています。皆様もどうぞお元気で。」

(尾崎||槍野美智子)

「岩に雪に沢にと年間二十回位の山行を続け、今ではもう正月
を雪山でむかえること今年で七回目を数えました。来年からは少
し山行もへるだろう(十一月二三日結婚式)残念だが仕方がない。
OB会員も全国の山々を登っていることと思います。どこかの山
でアルプスでYWV会員、OBに会いたいと思っています。現在
高松労山(勤労者山の会)に所属しています。」(一村健次郎)

「横浜ゴムを休職、現在組合専従。タイヤ業界不況、首切りな
しに立ち直れるか心配。五月二十三日結婚、平凡な家庭を着々と
築いている。女房はすでに妊娠中で双子を希望、女子は不要。山
には行ってないく近くに山があるから。スキーもやらないく近
くにウィスキーがあるから。浮気もしないく近くに女房がいるか
ら。すべてしない、やらない事が平凡なのだろう。平凡よさよう

ならノ これが来年度の目標。遊びに来て下さい、美しい妻が歓
迎するでしょう。」

(天笠宏道)

「今年五月に川崎(多摩区)へ移転しました。川崎という工
場からの排煙、騒音等大変ゴミゴミした所と思われるでしょうが、
こちらはまだまだ緑もありのんびりしたものです。夏など夜に窓
を開けておくとカブトムシが飛び込んでくる次第です。」

(三浦煌太郎)

その他では、寺本君が福岡に転動したこと(九月)位で余り変化
はない様子である。

(文責 上原)

△第十三期生▽

最近、といっても四ヶ月ぐらいだが、連絡とっていないので、
どうしているかな、と村松宅に電話を入れてみる。あいかわらず
の江伊子夫人の美声が耳に届いてくる、彼も何の変わりもなし。会
うことに決め、皆に一声かければ、たちまち五人程集まる。しか
し、会ってみれば、やはり結婚の話など多いですなあ。そうそう、
我ら十三期、メデタイ話、前号にて約束したとおり、ここに大っ
びらに発表できるのです。村松、竹村、赤松の三人が結婚(挙式
順)。実に昭和五十一年四月終りから五月中旬にかけてバタバタ
と、しかも奥さんは皆ワングル中退(途中でやめさせた?)、こ
んなメデタク、又奇妙な、不思議なことは二度とおこるまいとい
う訳で、十三期と十五期(赤村、村松夫人が元十五期)の有志が
中心となり、祝賀パーティーを盛大に挙行し、三組のカップルを

サカナに楽しい一時をすごしたのでした。

これら結婚トリオに対し、光陵高トリオ（太田、吉里、海保）は地道な生活をしております。ある者はいまだに月一〜二回の山行をおこない、役満ふりこんで、会う約束といえは男だったりで、……マジメなんだよなあ。さて、宇佐川、只今は設計事務所もやめ徳山に帰省、将来について熟慮中とか。中村は一番の高給取りながら暇なさそう。彼女に対してさかんに亭主閑白になろうと今から教育しているようですが……どんな案配ですか？（いつ結婚するか等は十五期の欄参照）。小沢女史、自称二十二〜三歳とおし（足のサイズではないのです）。只今東京にて産休補助講師、来年はまた関西に進出か？

会った時の話では、こんなところですか。まあ、十三期、二〇代後半、結婚等で身辺あわただしくなってきた、という訳です。もっとも結婚しても、大学時代とさして変らない面々ですが。

（海保）

△第十四期生▽

十四期の八人、二〇代の半ばにかかって、ようやく社会人として恥かしくないようになったのではないかと思います。首都圏に残っている者は、ほんの一握り。そういうわけで近況報告になっているかどうか？ 小口……純粋長野県人になりきった。毎日片道一時間歩くワングル実践派。道夫……ガス課からセルロース課へ、あいかわらず山小屋へ入りびたりらしい。鶴飼……塩釜へ左

遷、東北造船の次期経営者にならんと、売れそりにない船をつくらせている。水本（旧姓曾根原）……はや日本を見かぎり夫妻ともどもアメリカへ。上野（旧姓西井）……只今〇〇でお休み中、来春皆様に御披ろうします。おめでとうノ 斉藤（旧姓狩野）……はや一児のママ、ちょっと早いというウワサもチラホラ、毎日育児に忙しい。鶴岡……ようやく学校を追い出され、官吏になるそりうで、日本もダメというウワサがある。

そろそろ我ら男性も一花咲かせようではありませんか。

（文責 鶴岡）

△第十五期生▽

我々十五期はかけがえのないメンバーである大島誠君を、七月、谷川岳において失いました。事故の詳細は、先にお知らせした通りですが、八人の仲間として、共に卒業したのもとして、何かポッカリ穴のあいたような気がしてなりません。ご心配いただいた先輩や後輩に感謝すると共に、彼の冥福をいのりたいと思っております。

さて、同期七人になってしまいました。みなそれぞれ元気に活躍しているようです。が、しかし、会報にのせて、御紹介するようにはなばなしいうわさはあまり伝わってまいりません。しいてあげれば、青木が来年の春ごろ結婚するらしい（相手？ もちろん、十三期の彼ですよ）という事と、谷島が、何の目的からか下宿に電話をひいた（一部には、この恩恵をこうむっている人が

いるようですが)事でしょう。残り男五人は、毎日仕事にいそしんでいるようです。十五期では、毎年、暮の三十日に山小山に集まってスキーをする事になっています。今年も、それぞれ都合をつけて集まります。

他のOB諸氏もよろしければ是非いらして下さい。

(文責 小泉)

△第十六期生▽

最も若いOB、十六期です。どうぞよろしく。

我十六期女傑カルテット大竹、長田、村田、山崎は、四名とも小学校教諭を拜命し、無事勤務し続けているとのこと。なお長田嬢はマイカー通勤一週間で、車をよけそこねて木にぶつかったとのこと。

男性一〇名のうちストレートに卒業しつつがなく就職したのはわずか二名。工学部高橋、経済学部本多の両君。ともに商社で明日の日本経済の為に日夜努力して忙しそうです。

残りのうち板垣、植松、佐藤、中野の四君は工学部大学院に在学中。アカデミックに研究に没頭していると思いきや、口をそろえて「女が欲しい。」

我期主将の池谷君は就職に奔走しているもの前途多難な様子
広島カープ池谷のように沢村賞がもらえるか。

残りは変人二名。岩田、松田両君。岩田君は一月遅れで卒業はしたものの、まともな就職口は捜さず、現在江ノ電で観光バスの

添員として活躍中。御利用の際はどうぞよろしく。松田君は大学に籍を置きながら映画学校に通っているとか。淀川長治に手を握られて喜んでいるそうです。日本映画の星となることを祈って下さい。

(三好記)

(さいごに)

原稿の届かなかった期もありますが、各期OBそれぞれ元気に
すごしていることと思います。次回を楽しみに。

《事務局より おしらせ》

(一) 今年には事故が二つも重なり、OB会としても暗く、憂うつな一年でした。五十二年度、新しい年に期待しましょう。OB会としても新しい一歩をふみだしたいと思えます。

伝え聞く所によれば、昭和三十二年五月一日が部認定の日とか、さすれば、昭和五十二年五月一日が二〇周年ですが、二〇周年行事を中心に来年度の行事予定を以下のようにくんでみました。

●記念総会 昭和五十二年五月二十二日(日)

アルコール入りで、パーティー形式でこの日は予定
からあけておいて下さい。

●山小屋集結 八月中